



見事な集中ぶりがいいですね！

《症例検討・123》

最後まで楽しかった記憶は残る

院長 清水 允熙

今回の症例は87歳女性のEさんです。生活歴は以下の通りです。

### 生活歴

千葉県出身のEさんは、父が病院経営者です。かなり裕福な家庭の3人姉妹の次女として生まれました。22歳のとき医師と結婚、子どもは女男女女の順で3人です。44歳のとき夫の浮気が原因で離婚しました。夫は家を出ていきました。



長男が結婚後、1年間は一緒に生活をしましたが、嫁との折合いが悪く、Eさんはアパートへ移り住み独り暮らしをしていました。その後、独

身でいた末娘の家へ移り住むことになりました。5年後、その末娘とけんかをしてア

パートへ移り住み、再び独り暮らしを始めました。アパートは長男の家の近くでした。

Eさんが70歳のときのことです。

84歳のとき、Eさんは長女宅へ引き取られました。しばしば長女とけんかをしては長男宅へ家出をするようになりました。この頃からEさんは被害妄想的な言動が強まり、外へ出歩くようにもなりま

した。Eさんが87歳の時、当院へ入院しました。

入院時の問題点は次のようなことでした。

## 症状

- ・嫁への不満が強い。
- ・「物を盗られた」と大騒ぎをする。
- ・嫁の話をするとう心臓の痛みを訴える。血圧も上昇する。

入院後のEさんの様子は次のようなものでした。

- ・「長男と一緒に生活したい」と訴えを繰り返す。
- ・他の患者さんに家族の面会があると自分にも家族の来訪があると信じて終日待ち続ける。家族が来ないとな機嫌になり、物忘れが激しくなり、食事を

したことなど5分も経つと忘れて再三要求する。

## 経過

入院中の経過は良好で、職員の手伝いをしたりするようになりました。Eさんにとって楽しい話題は優しかった父の思い出と、オテンバ少女だったころの出来事でした。これらの話をするときのEさんの顔は信じられないほど穏やかでにこやかでした。

Eさんが話題にすることを避けたのは姉のことで、「私の姉が美人だったので」「姉ばかり可愛がっていたから」といっていました。Eさんの長男は商社マンで仕事に忙しく、外国への出張もあり、家には留守がちな生活が続いていました。娘2人

はあまり健康でなく、病院通いをしていました。それでもみんな暇をみてはEさんへの面会を心掛けていました。

Eさんは病状経過に従って入院を数回くり返しました。娘宅へだけの退院でした。

しかし、認知症の改善も身体健康維持も最後は寄る年波には勝てません。Eさんが94歳になるころには私たちが話しかけの言葉を理解できな、大小便を失禁してもわからない、長男の名前も顔もわからない状態になりました。

それでもEさんは毅然とした態度を保ち、にこやかな表情を持ち続けました。そして、私たちが上手に聞き出せば、優しかった父親のこと、楽しかったオテンバ時代の出来事を話し続けたのです。それ以

外のことは記憶にはもうなかったようでした。認知症が非常に進んだ重度の状態でも、Eさんの記憶には本当に優しくかった人（はじめは優しくてもそれが最後まで続かなかつた人はダメのようです）、心から楽しかったこと、幼いころにきちんとつけられた礼儀作法の一部などは最後まで残されていたのです。

ただ残念だったことは、ふつうは最後まで忘れないはずの長男のことを忘れてしまったことでした。長男がEさんの期待に最後まで添うことができなかつたからなのでしょう。まだ元気だったころ、末娘とけんか別れまでして長男の住む家の近くにアパートを探し、また長男の家へ家出をするために長女としばしばけんかをしたくらいEさん

だったからです。Eさんは肺炎を併発し、95歳で亡くなりました。でも、Eさんは私たちに次のようなことを教えてくださいました。

## メモ

1. 本当に優しくされたこと、心から楽しかったことは最後まで記憶として残ること。
2. 嬉しかったこと、楽しかったことが多ければ多いほど認知症が進行しても残っている記憶量は多いこと。
3. 記憶していることが多ければ多いほど、私たちは会話を続けることができ、対人関係を保つことができること。このことよ
4. 幼いころきちんと身につけたエチケットは認知症になつてからも身につけていること。
5. 私たちは、老人にとつての喜びであり楽しみでなくてはいけないこと。少なくとも、喜びや楽しみの提供者でなくてはいけないこと。

これらのことは、これまで主張してきた「悲しい」「淋しい」「辛い」「苦しい」「悔しい」「情けない」日々を長く続けていると、認知症状態に早く陥るといふことを証明しているのではないだろうか。

## 富士山麓病院介護医療院の「ホームページ」ご案内

当施設は認知症高齢者の症状を「改善」「進行を遅らせる」「進行の停止」そしてご家族の精神的負担を軽減することを目標とし日々努めております。施設のHPでは認知症に対する各種対応法やケアについて記載してあります。ぜひ一度ご覧になってみてください。



<https://ninchisyo.jp>

## BCP事業継続計画 と災害に対する備え

事務長 牧ヶ谷 泰洋

3月25日にBCP事業継続計画の確認と消火防災訓練を行いました。

新型コロナウイルス等感染症や大地震などの災害が発生すると、通常通りに業務を実施することが困難になります。業務を中断させないように準備するとともに、中断した場合でも優先業務を実施するため、あらかじめ検討した方策を計画書として準備し、職員全員が理解しておくことが重要です。

私たち介護事業者は入所利用者の健康・身体・生命を守るための必要不可欠な責任を担っています。入所施設においては自然災害・感染症発生

時でも業務を継続できるように事前に準備をしており、利用者の皆様に対して災害発生時でも最低限のサービスを提供していくための準備を行っています。

利用者の安全確保、職員の安全確保、地域への貢献を念頭にBCP事業継続計画を策定し、日頃から防災訓練を行い、職員一同、非常時の対応が敏速に行えるよう今後も訓練を重ねて参ります。



防災訓練の様子

## 初めての介護職

介護職員 藤井 恵美

わたしは派遣で入職し、その後正職員になってからあわせて9年、富士山麓病院介護医療院で働かせてもらっています。

違う職種からの転職だったので、楽しみ半分、不安半分で入職したことを覚えていています。

若い頃、介護は自分が働くことはない仕事だと思っていましたが、自分が子どもを出産したところから介護の仕事に興味を持ち始め、下の子が大きくなったら挑戦してみようかなと思っていたときに、知人に派遣会社を紹介してもらい、今も働かせてもらっています。

利用者様に優しく接し、優しい声掛けをしようと心掛け

ていますが、なかなか思うように接したり声掛けが出来ずに家に帰って落ち込むこともありました。そのような時は、周りにお手本となる人たちがいたので、どういった対応をすればいいのか相談して、その方法で声掛けしたらスムーズに対応できたので、声掛け次第でこんなに変わるんだなというのを実感しました。

今もこの人の対応や声掛けがいいなと思える人たちがいるので、その対応の仕方を取り入れるようにしています。声掛け次第で笑顔になってくれるので、声掛けの大切さを学びました。

私のいる3階療養棟は困ったときに相談できる人がたくさんいるので、私も困っている時に助けることができるように、今いる環境に甘えず、毎日楽しく頑張っていきたいです。

場所・時間・料金・予約の  
専門スタッフが詳しく対応します！

たれても大歓迎！  
友達とコーヒーを飲みながらゆっくりくつろぎに  
際でもOK！

地域のみなさんが  
気軽に訪れることが  
できる場所です！

**富士山  
FUJISAN  
桂花  
MOKUSEI  
カフェ**

月に一度だけ！

3つの部屋と展示室

富士山麓病院介護療養科  
0550-89-5671 (代表)  
予約受付時間：9時～15時

●参加費無料 定員 先着順30名  
●お茶代等はの方はお電話にて  
ご予約をお願いします  
●予約受付は開催日の3日前まで  
ただし定員になり次第終了となります

ホームページ用

**富士山桂花café**  
ふじさんろくせいにかふえ

5月 27日(火)  
14:00～15:00

参加費無料 定員 先着順30名  
お茶代等はの方はお電話にて  
ご予約をお願いします  
予約受付は開催日の3日前まで  
ただし定員になり次第終了となります

～開催場所～  
富士山麓病院介護療養科  
～予約はこちら～  
0550-89-5671 (代表)

認知症カフェとは、認知症のある方やその  
家族が、専門の人に相談しつくり  
休めることができる場所です。  
興味のある方、介護について気になる方など、  
だれでも気軽に訪れることのできる優しい場です。

配布用

昨秋、「富士山桂花Cafe」のポスターの新デザインを御殿場西高校美術部の生徒さんに依頼しました。10点の応募があり、当施設のスタッフはもちろん、Cafeに参加された地域の方々にもお好みのデザインを投票していただきました。

3月14日に行われた富士山桂花Cafeでは選ばれた2点の作品が発表され、製作してくれた生徒さんがコメントを寄せてくれました。

**Cafeの  
新デザインポスター  
決定！**

投票結果を見てみると、鮮やかな配色が目を引くデザインと見るだけでほっこりする優しいデザインが接戦の末選ばれました。どちらも高校生ならではの瑞々しい感性が素晴らしい作品です。



左：勝又紅葉さん 右：川口美咲さん

1年生のときは外部活動がなかったのですが、楽しくポスター作りができました。ポスター作りだけでなく、認知症についてより知ることができたり、実際にカフェに来たご高齢の皆様と話せたりして、素晴らしい機会を得ることができたと感じています。3年生になったら、新1・2年生を連れてまた参加したいです。

★勝又紅葉くればは

頑張って考えたポスターのデザインを気に入っていただけ、とても嬉しいです。私たちの部活動は活発的に活動したり外部の方と関わったりすることが少なく、やってみるなとずっと思っていたので、このような活動ができて良かったです。ぜひこれからもお手伝いをさせていただきます！

★川口美咲みさき

## 富士山桂花カフェ

### を通して

CACチーム 及川 綾華

初めまして。CACチームの及川綾華と申します。私はライフケア委員会で施設内のイベントや「富士山桂花カフェ」の企画に携わっています。

入職前に何度か「富士山桂花カフェ」に参加したことがあります。その時は家族の入所先を探しており、家族の立場としてこのカフェに参加しました。スタッフの皆さんの元気なエネルギーが溢れ、何よりも温かく迎え入れてくれたことが非常に嬉しく、今でも心に残っています。認知症の家族を持つ立場としては、不安や心配、日々の精神的な疲労がありました。このカフェに来ると心が和らぎ、元

気ももらえました。

そんなご縁をきっかけに、現在はスタッフとして企画する側へとなりました。

毎月異なるテーマに基づき、参加される皆様がどのようなことをしたら喜んでくださるか、笑顔になり、楽しかったと思ってもらえるのかをスタッフで考えています。そのためにはテーマの内容に沿って様々な準備を整える必要があります。開催する側となつて、参加する側では気づかなかった大変さや気配り、スタッフの方々の努力があつてこそカフェが成り立っているのだと改めて感じています。

3月のカフェでは「セラピー犬とふれあおう」をテーマに御殿場西高等学校の生徒さんとセラピー犬のアンディくんが来てくれ、触れあっていたり「サザエさん」

の曲に合わせて体操を行いました。

参加者の方々からは「セラピー犬に癒された!」「みんなで体を動かすことができて楽しかった!」「次回も楽しみにしています!」などとお言葉をいただけただけが大変嬉しかったです。そして参加者の方々の笑顔を見ると達成感があり、次回の活力へとも繋がっています。

これからも、充実した時間を提供できるようにスタッフ一同努めていきたいと思っています。そして私自身も常に新しいアイデアを取り入れ、柔軟な発想で企画に活かしていきたいよう努力を重ねていきます。今後もより一層、心温まる場を作りあげていきますので、是非「富士山桂花カフェ」へ足を運んでいただくと嬉しく思います。



サザエさん体操を元気に!



セラピー犬のアンディくんと

## 一般療養棟について

看護師 小柳出 紬

今回、一階療養棟について紹介させて頂くことになりました、看護師の小柳出 紬（おやいで つむぎ）と申します。

私は、約半年前に入職しました。以前は総合病院や医療付き居宅型有料老人ホームに勤めておりました。それまでの職場でも認知症の方々の関わりはありましたが、全ての患者、利用者が認知症を患っている環境は当施設が初めてでした。そのため入職当初は利用者や環境等に驚くことが多かったのを覚えています。

一階療養棟には、ADL※がほぼ自立されている方々か

ら寝たきりに近い車椅子を使用している方と、幅広い方々が生活されています。

自立歩行できる方の中には、時に他の利用者に手を貸そうとしたり声をかけてしまうため、トラブルの種になってしまいう方が数名おり、目を離せない状況が続いています。介護・看護スタッフ間で協力しながら対応に当たっています。ほとんどの皆さんは比較的自由に廊下を自走したりテレビを見たり、利用者同士で談笑しながら過ごされています。

スタッフの皆さんはとても明るく元気で優しい方ばかりです。各利用者の個性や生活背景に配慮しながら、気さくに触れ合ったり、コミュニケーションをとっているのを見かけます。スタッフからの声掛けに嬉しそうな表情をする利用者の様子を見ると、私

も微笑ましく思うのと同時に、認知症の方への関わり方として勉強になると感じています。

入職時から現在まで、業務内容のことや利用者のことなどをとても丁寧に教えてくださっています。どうしたらいいか困っている時、すぐに「大丈夫？」などと声をかけてくださったり、「ゆっくり覚えていきましよう！一緒に頑張りましよう」等、気さくにたくさん声をかけてくださったので不安が和らぎ、少しずつですが職場環境に慣れることができました。また、各スタッフの体調面や家庭環境等に配慮をして勤務調整ができた時、急なお休みにもお互い協力しながら働ける環境はとても魅力的だと感じています。

まだまだ分からないことも多いですが、スタッフの皆さんのお力を借りながら、利用

者様が安心して生活出来るように携わっていかれたらと思っています。

※ADLとはActivities of Daily Livingの略で「日常生活動作」のこと。高齢者や障がい者が食事や排泄、移動などの日常生活上の動作をどの程度行えるのか示す指標として用いられる。



小柳出 紬さん

## 事務員さん

事務所  
北原 袿菜

事務所 北原 袿菜

私は事務所に所属している北原袿菜です。今回、新聞の執筆を依頼され、ドキドキしながら執筆させていただきました。

私は入職してから2年ほど経ちますが、まだまだ学ぶことが数多くあって勉強中です。入職した当時はわからないことも多くあり、そのたびに先輩方に支えられてきました。

ここで働く前は医療事務や支援員などをしていました。福祉の大学を出ているので大学で得た知識を活かしたいと思いい、最初は福祉に関する仕事をしていたのですが、途中で事務の關係の仕事をする機会があり、そこで興味を持った

ため、別のところで事務員として働いたりしていました。前職で私は仕事を長く続けることができず、悩みの一つでもありました。ここで働き始めた際も続けられるだろうかという不安もありましたが、事務所の先輩をはじめ、いろいろな方たちに支えられて続けることができている。

事務所の先輩方はとてもやさしく時には厳しく教えていただき、アドバイスをたくさんしてくださり、とてもありがたく思います。

事務所の仕事は書類関係から外来の入力など多岐にわたり、様々な知識が必要となり大変なことも多いですが、たくさんの方に支えられて頑張っています。

支えていただいた方の中には利用者様もいて、私が悩んでいた際に「会いに来てくれて嬉しいよ！よく頑張って

いるね」と言ってくださる方や「人のいいところを盗んで自分のものにするんだよ」とアドバイスをくださる方もいて、とても励みになりました。

何かを作成したり、時間を共有することで楽しい思い出を作っていけるようにしています。事務員としてできることを模索している途中ですが、これからも精一杯頑張りたいです。



事務所職員 前列中央が北原袿菜さん



# レクリエーションフォトギャラリー

鬼が来たぞ～



福の神たちとにっこり



どちらの雛もかわいいな



お内裏さま？



上手に編めました！

久々のかるた遊び



元利用者様のご家族から  
175号の感想が寄せら  
れましたので、一部をご  
紹介します。

〔前略〕 理事長様をは

じめ富士山麓病院関係の皆さまは、お元気で業務に励まれていることと思います。病院新聞175号を読ませて頂きました。

清水理事長の（症例検討122）を読ませて頂き、認知症になってもその人の生活には人生が凝縮されているに違いない、という思いを強く感じました。認知症の方に限らず、人に接する時に私たちが常にそのことを心にとめておくことの大切さを学ばせて頂きました。

松下常務理事が進めてこられた改革によって、病院（介護医療院）は見違えるほど素

晴らしい変貌を遂げています。今回さらなる改革発展を目指して10項目のチャレンジ目標を明確にされたことは、スタッフの皆さまにとっても目標の共有と進むべき方向への相互協力に大きな力を与えることと思います。

2階療養棟をご紹介下さった中島美幸様、ありがとうございます。こちらで10年近くお世話になった私の叔父の療養生活を思い出します。叔父は現役時代に学校の教師をしていたので、そのクセが抜けずスタッフの皆さまの手を煩わせることが多かったようですが、いつもやさしく接して頂き、とても感謝しています。

CACチームの栗原チヨ様、富士山麓神社をご紹介して頂きありがとうございます。この記事を読むまで、病院4階〜屋上に神社が祀られている

ことを私は知りませんでした。とても壮大な眺めでしょうね。  
〔以下略〕  
皆さまもどうぞお体に十分ご注意ください、患者様のために頑張ってください。

2025年3月31日

千葉県鎌ヶ谷市

齊藤 明



施設内の桜も満開です

今年の桜は例年より遅れており「桜がまだ咲かないね」と入所者様と窓の景色を眺めながら春の訪れを待ちわびていました。

4月上旬になると施設内の桜も満開になり、散歩中に桜を見ると利用者様に笑顔が溢れていました。

また昨年も好評だった御殿場市内へのお花見ドライブも行い、車窓からの景色に「綺麗ね」「ドライブが楽しい」と春の訪れを楽しみました。



お花見ドライブで気分転換！

お気楽  
歴史  
エッセイ

④

## 「才女時代」のドラマ

内藤 真治

日曜夜にNHKが放送する「大河ドラマ」は今年で第六四回だとか、近年は珍しいテーマと視点で注目されています。

昨年の「光る君へ」は平安中期が題材で、すさまじい権力闘争と共に宮中に仕える女性たちの姿が描かれていました。『源氏物語』の紫式部を中心に『枕草子』の清少納言、歌人の和泉式部、赤染衛門……。

しかし変です。豊かな才能で文学史の上では欠かせない彼女たちですが、誰も本名がわかっていないのです。

紫式部とは作品に登場する人物の中で「紫の上」が理想的な女性として描かれたからで、以前は「藤式部」でした。父親の藤原為時と兄も式部省の役

人だったことに由来します。清少納言は父が清原元輔なので清、しかし父も兄も少納言の官位についてた事実はないのでなぜ清少納言かは謎です。

『蜻蛉日記』の作者にいたっては藤原道綱母、『更級日記』の作者は菅原孝標女たかすけのみすめです。一人の独立した人間ではなく、道綱という男の母、孝標という男の娘として存在するだけです。

さらに紫式部も清少納言も、中級貴族の娘でした。立身出世を願う男は摂関家（上級貴族）とのつながりを求めて娘に教養を付けさせ、女房（女官）として宮中に送り込みました。『枕草子』から読み取れるのは同僚に「負けるものか」と「目立とう精神」です。平安

時代の才女は女であること、不幸に加えて一族の浮沈がその双肩にかかっていたのでした。

今年の「べらぼう」は江戸中期のメディア王・蔦屋重三郎の一代記らしいですが、導入部は幕府公認の遊郭「吉原」です。一方で華やかな花魁道中を描きながら、貧しさや親の病気が原因で「苦界」に身を沈めた圧倒的多数の遊女の悲しみと格差社会の実態を描いています。

「光る君へ」は大石静、「べらぼう」は森下佳子の脚本で、いかにも女性の視点を感じます。

一九六〇年代以降に「才女時代」という言葉があつて、有吉佐和子、山崎豊子、平岩弓枝、曾野綾子、田辺聖子などが次々と話題作を発表しました。

劇作家では向田邦子や「おしん」の橋田壽賀子、「大河」で「平清盛」の藤本有紀、「八

重の桜」は山本むつみ、「篤姫」の田淵久美子、「青天を衝け（渋沢栄一）」の大森美香など実に多士済々。

朝のテレビ小説では昨年の「虎に翼」（吉田恵里香）が好評でした。もはや「女流作家」などという言葉は時代遅れです。

ところが昨年の「ジェンダーギャップ指数（世界経済フォーラムが発表する男女間不均衡の報告書）」で日本は世界の二四六カ国中一一八位でした。「教育」と「健康」の分野は高くても、「政治」（国や地方議会で女性議員が占める比率）と「経済」（企業で女性の役員が何割いるかなど）が低位にとどめている原因のようです。

群馬で今年、県立学校の校長に任命された女性が三人いますが、全員が「特別支援学校」（障がい児教育）でした。この事実から何を読み取りますか？



# 「豪ノ萌姫号」



経理・労務 志村 徳子

この言葉から何を想像しますか？我が家の家族の一員である柴犬（シバイヌ）の血統書に記されている犬名だ。現在の名前は怜美（レミ）。

志村家にはもともと人間の娘が二人いる。怜美ちゃんは三人目の娘として迎え、大事に大事に育ててきたのだが、最近、事件が起きた。

残業を終えて帰宅し、遅めの夕食をとっていると、二階でドタバタ音がするので様子を見に行ってみた。夫が出掛ける準備をしていたのだが、テーブルの上に置いた歯磨き粉を怜美ちゃんが奪い取り逃げまわっていたのだ。人間の歯磨き粉は犬にとっては危険であったようなという不確かな記憶に慌てた私は無理やり

取り返そうとすると：

ガブッ！！やられた！！右手から痛みと共に血が流れ始めた。近くに住む人間の方の娘に連絡し、連れて行ってく

れた救急センターでは3針縫い、破傷風ワクチンを接種された。「飼い犬に手を噛まれる」とは悲しいやら情けないやら複雑な心境に陥っていた。

ケガした後の日々は思っていた以上に大変で、仕事ではパソコンを使うことが多く、手を動かす度に傷口を覆っている絆創膏がはがれてしまい困っていた。幸いにも私の職場には看護師職員がたくさんいるので相談に行ってみた。業務中とは全く異なり、どの看護師も優しい表情と口調で丁寧に傷の手当のアドバイス

をしてくれた。看護師に限られたことではないが、普段から清水理事長が唱えている「優しい人」は入所者様やそのご家族に限らず誰にでも優しく出来るのだなと実感した。業務の中で多くの職員と関わる自分も「優しい人」に少しでも近づけるようになりたいと思っただ。

さて、事件を起こした怜美ちゃんだが、ママをガブリとした事はとっくに忘れてしまい、いつもと変わらぬ散歩に行き、おやつを食べ、昼寝をしようと「豪ノ萌姫号」さながら、自由な姫のような生活を謳歌している。



志村家3人目の娘、怜美ちゃん

## 編集後記

メートル法以前の話ですが「春夏秋冬二升五合」と書いて「商い（秋無い）益々（升々）繁盛（五合半升）」と読ませ縁起物として商家などに贈る習慣がありました。

今や日本は秋に加え春もない「二季」の地になったようです。日替わりで乱高下する気温に悩む日々でした。明らかに地球温暖化の影響です。世界中が山火事と砂漠化、一方で大洪水に苦しんでいる時代に「温暖化なんてウソだ」（温暖化の一因である石炭、石油を）「掘って掘って掘りまくれ」と豪語する大統領がいる時代です。「私はこれが正しいと信じている。しかし私も間違っているかもしれない」と考えるのが民主主義の大前提です。自信過剰の大統領にブレーキがかかる日が必ず来るはず、と信じましょう。

（内藤 真治）